

## ご挨拶

本日はご多用の中、ご来場いただき有難うございました。

私どもパルティータ マンドリン・ギターアンサンブルは第7回定期演奏会を開催する運びとなりました。

昨年第6回定演では、ハンガリー曲を特集で選びましたが、今回は映画音楽を特集でお送りします。

心をこめて演奏致しますので、どうか最後までお聴き戴き、ご声援よろしくお願ひ申し上げます。

パルティータ マンドリン・ギターアンサンブル 一同

## プログラム

### 第一部 オリジナル曲

序曲 バクダットの太守

A. Boieldieu

即興的スケルツォ

C. Graziani-Walter

晩年に

H. Lavitrano

アルモール

H. Bert

### 第二部 ギター合奏

四季「春」第3楽章

A. Vivaldi

ひまわり

H. Mancini

放課後の音楽室

GONTTI

花祭り

E. Zaldivar

<休憩 15分>

### 第三部 映画音楽特集

慕情

S. Fain

エデンの東

L. Rosenman

ケ・セラ・セラ

L. Newman

コレリ大尉のマンドリン

S. Warbeck

八十日間世界一周

V. Young

防人の詩

さだ・まさし

サウンド・オブ・ミュージック

R. Rodgers



## 曲目解説

### 即興的スケルツォ-----カルロ・グラツィアーニ=ワルテル

作者は1851年8月1日ベルギーのブリュッセルに生まれ、早くからイタリアに帰化、1927年8月30日フレンツェに逝いた。生涯ここに定住してかのムニエルにも注目され、有名な同地のマルゲリータ皇后マンドリン合奏団の指揮者ともなった。一般には映画音楽の作曲家として知られているが、マンドリン音楽への多大な貢献を忘れることは出来ない。

本曲はエルマンノ・ストルファ技師に贈られたセビリアーナ調で冒頭三味線を想わせる趣がある。即興的な楽想の思いつきから(イ短調)、へ長調の歌謡調に入り終わりは華麗なイ長調で結んでいる。

### 晩年に-----ジヤチント・ラヴィトラーノ

永年アルジェリアの地中海に沿ったボーナ市に住み、1938年12月同地で没した作者は、フランスのL'Estudiantina誌を通じて、プレクトラム音楽へ数多くの佳曲を発表した。“Lola”、“Renata”と雪(Nieves)の三大傑作が有名である。当時のマンドリン音楽隆盛時には、イタリアでしばしば催された音楽コンクールには地中海を隔てたアルジェリアからも参加するほどの交流があった。

本曲はL'Estudiantina誌の1933年3月号で出版された曲で、世界でも数少ない貴重な楽譜と云われている。

### アルモール(演奏会用大幻想曲)-----ヘンリー・バール

- A. Le matin en Bretagne (ブルターニュの朝)
- B. Barcarolle de Yann (ヨンの舟歌)
- C. La diligence (乗合馬車、駅馬車)
- D. Idylle, Romance de Yann à Dorik (田園詩、清純な恋)
- E. Lorage (雷雨、夕立)
- F. Finale (終曲)

1908年パリにおけるL'Estudiantina主催第3回国際作曲コンクールで第一位を受賞した作品。

作者はフランス初期のマンドリン奏者でボルドーマンドリンクラブで指揮者を務めた。第1次欧州大戦で戦死した。

### 映画音楽特集

【慕情】—— 1955年製作、原題「Love Is A Many-Splendored Thing」のアメリカ映画の主題歌

中国人の父とイギリス人の母を持つ混血児の女医、ハン・スーイン女史の自伝的小説を映画化した。原題と同名の主題歌は、ジュニア・ジョーンズの熱演と香港ロケの美しさが話題となり、世界的に大ヒットした。

【エデンの東】—— 1955年製作、原題「East of Eden」のアメリカ映画のテーマ曲

監督はエリア・カザン。ジョン・スタインベックの同名小説「エデンの東」をポール・オズボーンが脚色し映画化した。映画初主演となったジェームズ・ディーンが人気と実力のあるスターとして地位を築いた作品として名高い。

【ケ・セラ・セラ】—— アルフレッド・ヒッチコックの1956年製作、原題「The Man Who Knew Too Much」のアメリカ映画「知りすぎていた男」のサウンドトラックの中で使用。「なるようになる」、「なんとかなる」という意味の「ケ・セラ・セラ」は、ドリス・デイの歌で有名になった曲で、日本ではペギー葉山の歌で大ヒットした。

【コレリ大尉のマンドリン】—— 2001年製作、原題「Captain Corelli's Mandolin」のアメリカ映画のテーマ曲  
第2次大戦下の悲劇の中で芽生えた愛を描く感動作。映画の中でマンドリンは音楽としての恋のキューピット以外にも重要な役割をはたしている。コレリは、銃撃によって瀕死の重傷をおった。戦時下で医療品不足の中、折れた肋骨をつなげるのに使用されたのが、彼のマンドリンの弦だった。

【八十日間世界一周】—— 1956年製作、原題「Around the World in 80 Days」のアメリカ映画のテーマ曲

19世紀末に発表されたジュール・ヴェルヌの同名小説の映画化。1872年、ヴィクトリア女王治下の英京ロンドン。典型的な大金持ち英国紳士が飛行機も自動車もない時代、同じ仲間のフォーム倶楽部の会員と80日間で世界一周できるかという賭けをする話。

【防人の詩】—— 1980年製作、山本直純が音楽監督を務めた映画「二百三高地」主題歌。作詩作曲：さだまさし  
歌詩は「万葉集」第16巻第3852番に基づいて作られている。「鯨魚取 海哉死為流 山哉死為流 死許曾 海者潮干而 山者枯為礼」「鯨魚(いさな) 取り海や死にする山や死にする死ぬれこそ海は潮干て山は枯れすれ」

【サウンド・オブ・ミュージック】—— 1965年製作、原題「The Sound of Music」のアメリカ映画よりメドレーで。リチャード・ロジャース、オスカー・ハマースタイン2世の原作を、ロバート・ワイズが製作・監督したミュージカル映画。7人の子供がいるやもめの厳格な退役海軍大佐、トラップ家の家庭教師となった志願修道女のマリア(ジュリー・アンドリュース)は、子供たちに音楽の楽しさ、歌うことのすばらしさを教えた。

最初の「慕情」は中川信良の編曲。「コレリ大尉のマンドリン」は小田善朗の編曲。他の5曲は河村丞一の編曲。過ぎし日に、映画を見た青春時代を思い起して戴ければ幸いです。

